

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

たくましく自立・しっかり自律し、自信を持って社会に参加できる人間を育成

1. 地域との連携を緊密に図り、地域から愛される「元気な学校」「きれいな学校」をめざす。
2. やさしさ、温かみを背景にした厳しい生徒指導を通して、基本的な生活習慣を身につけ、規範意識の高い生徒を育成する。
3. 「確かな学力」である基礎的・基本的な学力を定着させると共に、自他敬愛、共生の「豊かな心」をはぐくみ「生きる力」を育成し、学校への帰属意識を高め、中途退学を減らす。
4. 全教職員が同じ方向に向き、生徒の目標実現や課題解決に向け様々な工夫を講じ、生徒・教職員が共に充実感や達成感を味わうことのできる学校をめざす。
5. 生徒や保護者、中学校、地域のニーズに的確に応えられる教育内容の充実を図り、教職員が最大限の力を発揮し「学校力」を高めることで「信頼できる学校」をめざす。

2 中期的目標

- 1 生徒の実態に応じた学習活動の推進
 - (1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的知識を確実に習得し、確かな学力を育成するための授業をめざす。
 - ア 研修委員会を中心に、公開授業と研究協議を実施し、生徒同士が励まし合いながら学ぶ楽しさを体得できるよう授業改善に取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断の授業満足度を（平成23年度50%）毎年5%引き上げ、平成26年度には65%をめざす。
 - (2) 少人数展開授業や教室での机配置などの工夫により、学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざす。
 - ア 協同的な学びを推進するために、小グループでの学習形態に取り組み、生徒同士の学び合いにより基礎的・基本的な学力を定着させる。
※中退率10ポイント未満をめざす。
- 2 全教育活動を通して思いやりと規範意識を育成
 - (1) 基本的な生活習慣を確立し、遅刻や問題行動の防止に努める。
 - ア 生活指導部を中心に、各学年集会やホームルームにおいて、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
※生活習慣の改善と中退防止からの観点から昨年度の遅刻者数の40%減をめざす。
 - (2) 生徒が抱える問題・課題に対し、生徒指導と教育相談で生徒一人ひとりにきめ細かなコミュニケーションがとれる場所の整備・充実を図り、不登校や中途退学を防止する。
 - ア 平成23年度「中期計画推進校」（教育相談パワーアップで中退防止）に指定され、整備・拡充した教育相談室を有効に活用できるよう、校内の教育相談体制をより一層充実する。
※生徒向け学校教育自己診断の教育相談満足度を（平成23年度40%）毎年10%引き上げ、平成26年度には70%をめざす。
- 3 生徒自らが進路目標を掲げ努力し、自己実現ができる支援・指導体制の充実
 - (1) 学校生活を通し、自己発見を促すとともに、勤労観・職業観・人生観を養う。
 - ア 進路指導部と学年が、3年間を見通した進路計画をもとに系統的な指導を行っていく。
※進路未決定者30%以下をめざす。そのために学校斡旋就職者の割合を70%、学校斡旋就職希望者内定率を80%以上めざす。
- 4 部活動・学校行事など活気あふれる元気な学校
 - (1) 部活動や生徒会活動への参加を呼びかけ、活動を通して豊かな人間性を育成する。
 - ア 部活動や生徒会活動等を通じて、責任感、連帯感、達成感を育む。
※生徒向け学校教育自己診断の学校行事満足度を（平成23年度55%）毎年5%引き上げ、平成26年度には70%をめざす。
※1年生の部活動加入率を（平成23年度30%）を平成26年度には45%をめざす。
- 5 生徒・保護者・中学校及び地域の視点に立って、開かれた学校づくりの推進
 - (1) 授業公開・ホームページ・学校通信などを通して教育活動を広く公開する。
 - ア 学校の取組みや現状等の情報を発信し、保護者や地域から「信頼できる学校」として確立する。
※保護者向け学校教育自己診断の学校に対する満足度を（平成23年度70%）を平成26年度には80%をめざす。
 - (2) 部活動や生徒会活動などにおいて、地域行事等へ積極的に参加する。
 - ア 保護者、地域等から「元気な学校」「きれいな学校」としての評価を確立する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|---|---|
| <p>【学習指導等】</p> <p>・昨年度から授業改革として、一斉授業ではなく生徒同士での学び合いに重点を置いた「協同的な学び」に取り組んできたが、第1学年は生徒・教師とも戸惑うところもあったが、2学期以降は生徒・教師もコの字型の机の配置から小グループでの学習に取り組めるようになった。生徒向け自己診断の「教え方に工夫している先生が多い」の項目に対して全体で63.4%が肯定的であり、授業アンケートの「授業改善」の項目は79%と「協同的な学び」の定着が図られていると思われる。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・定期的に身だしなみ指導等を実施していることで、生徒の規範意識向上度が70%と向上してきている。また、教育相談満足度については、50%と昨年度より低い結果が出た。1年生が低く、担任以外に誰に相談すれば良いかわからないのではと思われる。</p> <p>【進路指導等】</p> <p>・進路意識調査結果をもとに進路ホームルームの充実を図ってきたが、その結果、進路に関する意識が高まり、2年生・3年生で70%以上が積極的に進路に関する情報を知ろうとするようになってきている。3年生は、学校からの進路情報への満足度が81%であった。</p> | <p>第1回（6/23）</p> <p>○H26年度学校経営計画について</p> <p>・昨年度から取り組む「協同的な学び」によって、授業中に寝ていた生徒が起きて頑張っているという声も聞いている。生徒が興味を持って参加できるよう授業の工夫をお願いしたい。</p> <p>・中退率について5年前から比べれば半減しているようだが、なお一層、生徒にとって魅力ある学校づくりをお願いしたい。</p> <p>第2回（10/8）</p> <p>○本年度重点目標の進捗状況等について</p> <p>・1年生での「協同的な学び」がやりにくいようである。確かに1年生は毎日何かが起こり学び合いが成立しにくいのが、生徒はわかることで変わる。学びたい思いは全員持っているのだから、根気よく頑張ってもらいたい。</p> <p>・例年の地域清掃には感謝している。地域を歩き回ってもらう際に、先生や生徒の皆さんが見て、町内の危険箇所などあればぜひ意見を聞きたいのでよろしく願います。</p> <p>第3回（1/26）</p> <p>○学校教育自己診断結果について</p> <p>・結果を基に学校全体で話し合い、改善できる点はしっかりと次年度につなげてほしい。</p> <p>○生活指導・キャリア教育について</p> <p>・遅刻が多い。1年生の間に遅刻がなぜいけないのかを徹底的に指導すべきである。</p> |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|------------------------------------|---|---|---|--|
| 生徒の実態に応じた学習活動の推進 | <p>(1) 少人数展開授業や教室での机配置などの工夫により、学習意欲や学習習慣の確立をめざす</p> <p>ア 生徒同士の学び合いの中から「考える力」つける</p> <p>イ 教師たちが専門家として育ち連携し合う同僚性を構築する</p> | <p>ア・各教科で、コの字型と小グループを併用し、生徒同士の学び合う授業づくりに取り組む。</p> <p>・学びの習慣を作るために、特に授業の最初の10分間を丁寧に授業展開する。</p> <p>・授業における課題を質・レベルともに高い(ジャンプ)課題も取り入れ、協同的な学びを進める。</p> <p>イ・公開授業、研究協議会を各学年で年間9回、また、全校で2回(校外対象)をめざす。</p> <p>・「協同的な学び」を実践している先進校の視察と交流を深め協同的な学びを推進するためのスキルアップを図る。</p> | <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の授業内容満足度70%</p> <p>・授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」を3.07→3.15</p> <p>「授業の展開がわかりやすい」3.19→3.40</p> <p>イ・公開授業、研究協議会を年間29回実施</p> | <p>ア・机配置をコの字型から4人グループの学習に取り組んでいるが、一斉授業型に慣れているためか、生徒向け学校教育自己診断の授業内容満足度は54.2%結果であった。(△)</p> <p>・授業アンケートの「授業内容に興味・関心を持てる」に対しては3.13。「授業展開がわかりやすい」については3.22と昨年度より上回った。(△)</p> <p>イ・校内公開授業、研究協議は学年間に少しばつきはあったが、25回実施した。また、校外向け公開授業は全教員の授業を公開できた。なお、見学者は約100名であった。(○)</p> |
| 全教育活動を通して思いやりと規範意識を育成 | <p>(1) 基本的な生活習慣を確立し、遅刻・欠席や問題行動の防止に努める</p> <p>ア 多様な生徒の学校定着に向け、校内連携を強化し、学校全体で統一した指導に臨む</p> <p>イ 「中期計画推進校」として、全教員が、問題・課題のある生徒と向き合えるよう、教育相談体制を充実させる</p> | <p>ア・生徒の実態把握に努め、家庭との連携により遅刻・欠席の原因を探り、全教員が共通認識を持って指導にあたり、欠席者や遅刻常習者の減少を図る。</p> <p>・対話による丁寧な指導により生徒の規範意識を高め、生徒との信頼関係を深める。</p> <p>・登校時の生徒自治会や教員による朝のあいさつ運動など、生徒同士や教員と生徒のコミュニケーションがとりやすい環境をつくる。</p> <p>イ・問題・課題を抱える生徒の早期把握に努め、修学支援委員会を中心に全教員が共通認識を持ち、人権に配慮した適切な生徒対応をする。</p> <p>・生徒一人ひとりとじっくり向き合い理解するためにも、4室ある教育相談室の利用を促進する。</p> <p>・スクールカウンセラー、教育相談実習生、学習支援員との連携により生徒の状況把握に努め、迅速にケース会議を開催する。</p> | <p>ア・昨年度の遅刻者数の10%減</p> <p>・昨年度の問題行動件数の10%減</p> <p>・生徒・教職員向け学校教育自己診断の生徒指導充実度80%</p> <p>イ・生徒・教職員向け学校教育自己診断の教育相談満足度70%</p> | <p>ア・不登校生徒は減少したが、遅刻者数は昨年度より大幅に増加した。(△)</p> <p>・規範意識を高める指導により、問題行動件数は昨年度の10%減になった。(○)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の生徒指導充実度は51.6%、教員向けでは80.3%大きな開きがあった。(△)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談満足度は50%、教員向けでは92.8%かなり大きな開きがあり、教育相談の捉え方の違いがあると思われる。(△)</p> |
| 生徒自らが進路目標を掲げ努力し、自己実現ができる支援・指導体制の充実 | <p>(1) 学校生活を通し、自己発見を促すとともに、勤労観・職業観・自己肯定観を養う</p> <p>ア 進路指導部と各学年が、系統的な年間計画にもとづいてキャリア教育を推進する</p> <p>イ 進路先未決定者の減少をはかる</p> | <p>ア・進路主担者と各学年の進路担当者が連携し、入学後早期からホームルーム等において自己分析をさせるとともに、自己肯定観を養う取り組みを図る。</p> <p>・大阪府専修学校各種学校連合会との連携により、実践的職業教育のリソースを活用するなど職業観・勤労観を養う学習プログラム、体験学習等を充実させる。</p> <p>・2年次のインターンシップ受け入れ先の開拓を図り、参加者を増加させるとともに企業経営者等との懇談会など現実的な職業観を学ぶ機会を多く設ける。</p> <p>イ・企業訪問により新規求人開拓を図るとともに生徒・保護者には視野を広く持って現実的な職業選択をするように意識改革を図る。</p> <p>・進学希望者に向けては、補習等により学力保障を図るとともに進学資金計画、奨学金制度について保護者を含めて説明会等により正しく理解させる。</p> <p>・支援を要する生徒については、専門機関との連携を図りながら生徒の適正・能力を把握し、職場実習を実施し、進路実現を支援する。</p> | <p>ア・生徒・保護者向け学校教育自己診断の進路学習および進路情報に対する満足度70%以上。</p> <p>・入学後早期に進路意識アンケートを実施し、進路学習実施後にアンケートを実施する。</p> <p>・インターンシップ等の職業観育成プログラムへの参加希望者50名以上。</p> <p>イ・進路未決定者38%以下。そのために就職希望者のうち学校斡旋就職希望者の割合を70%以上。</p> <p>・学校斡旋就職希望者の内定率を80%以上。</p> | <p>ア・生徒向け学校自己診断の進路学習および進路情報に対する満足度は66.3%、保護者向けでは80.3%であった。(○)</p> <p>・進路意識アンケートを実施し、系統的な進路学習計画を立てることができた。(○)</p> <p>・インターンシップ等への職業観育成プログラムへの参加者は50名を超えた。(◎)</p> <p>イ・進路未決定者は30%。また、就職希望者のうち学校斡旋希望者は52%であった。(○)</p> <p>・学校斡旋就職希望者の内定率は84%であった。(◎)</p> |